

意見箱に寄せられたご意見に対するご回答

高知県子育て支援課では、高知県こども計画の策定に向けたご意見をＨＰで募集しました。ご意見をお寄せいただいたみなさま、ありがとうございました。
いただいたご意見は、県の関係課に共有し、高知県がこどもや若者のみなさんにとってより良い環境となるように、引き続き取り組んでまいります。

ご意見を寄せてくださった方			ご意見	県担当課からの回答	関係課	
属性	学年	年齢				
1	小学校	3 年	9	戦争や事件や悪いことがおきないようにしてほしい。	一人ひとりが自分の考えや気持ちを大切に、希望をもって暮らせる社会となること、こども達の今とこれからにとって、とても大切なことだと考えています。 高知県として、こども達が幸せに暮らせるように取り組んでいきます。 家庭や学校において、こどもの頃から他者を思いやる気持ちを育むことや、人権への理解を深めること、悪いことはしないようにするという基本的な意識を育むことが、未来のより良い社会を築くことにつながると 생각합니다。	子育て支援課 県警少年課 人権教育・児童生徒課
2	小学校	4 年	10	・起業体験プログラムが楽しかった。 ・「てくテックすさき」のような居場所が近くに出来たら嬉しいです。 ・徳島で、MG（マネジメントゲーム）の2日間の体験をして、マトリックス会計は難しかったけど楽しかったので、高知であつたら嬉しい。 ・つやまエリアオープンファクトリーの工場見学などの体験イベントが楽しかったので高知でもやって欲しい。 ・国際交流の大州の青少年の家宿泊のプログラムに参加したかったが値段が高かったので、安い値段で高知であれば参加したい。 ・青少年の家などの宿泊プログラムが楽しかったので、いろいろなテーマで開催して欲しい。 ・香北青少年の家の忍者大会が楽しかったのでまた参加したい。 ・神山や、西あわなどの親子ワークショップに行くとカヌーやいろいろな体験が楽しかったので、高知でもやって欲しい。 ・土佐山での、巨大竹ブランコ製作をしたのが楽しかったので、また参加したい。	「高知県こども計画」では、「多様な遊びや体験、活躍できる機会づくり」の取組として、こどものみなさんが、将来の職業や夢を考えるきっかけとなるような体験の提供に取り組むことを記載しました。高知県の特色を生かした産業や仕事についても知る機会を得られるようにしていきます。 遊びや体験活動は、成長の原点になります。 大人になるにあたって、こどもの頃からさまざまな経験を積んで、失敗や成功を経験して成長していくことが、とても大切です。好きなことや自分の強みを見つけられるように、豊かな自然や食などの高知県ならではの地域の資源を生かして、たくさん高知県の魅力を知ることができるように取り組みます。	産業イノベーション課 土木政策課 商工政策課 工業振興課 小中学校課 特別支援教育課 生涯学習課
3	小学校	6年	-	若者のキャリアサポート	高知県では、こどもたちが将来、希望する進路に進めるように支援を行います。学校におけるキャリア教育については、事業所の見学、インターンシップなどを充実させて、体験的な学びを重視するなど、キャリア教育の充実を図っていきます。 引き続き、高知県のこども・若者のみなさんの将来をしっかりと応援できるように取り組みます。	小中学校課 高等学校課 特別支援教育課 私学・大学支援課 商工政策課

ご意見を寄せてくださった方			ご意見	県担当課からの回答	関係課	
属性	学年	年齢				
4	中学校	2 年	13	お金を稼ぐ仕組み。娯楽が欲しい。近くに空港がほしい。	こどもや若者のみなさんが、高知県で安心していきいきと暮らせるように、関係機関と協議を重ねながら取り組んでまいります。	—
5	中学校	3年	15	学校の先生が、性犯罪などで逮捕されるニュースを聞いたりすると嫌な気持ちになります。 子どもの安全を守るために、大人にもきちんと人権教育をしてください。	子ども達を守りながら、大人へと導く崇高な使命を担う教職員が、性犯罪などの不祥事を起こすことは、県民の皆様 の 信頼を失う、許されないことだと考えています。そのため、県教育委員会では、公立学校の教職員が、性犯罪を含む不祥事を起こすことのないよう、防止対策に全力で取り組んでいます。 これまでも、全ての公立学校に不祥事防止委員会を設置し、教職員への校内研修を実施するなどの取組を行っておりますが、さらに啓発、研修を強化するなど、しっかりと不祥事防止対策を進めていきます。 また、高知県では、平成31年3月に高知県人権教育基本方針を策定し、県民に身近な人権問題を掲げ、その解決に向けて人権教育や人権啓発の様々な取り組みを行っています。今後も、人権週間などを中心に、テレビやラジオ、新聞などのマスメディアによる啓発、講演会などのイベントを継続的に実施し、より多くの県民が啓発活動に触れることで人権に関心を持つことができるよう取り組みます。	教育委員会（教職員・福利課） 人権・男女共同参画課
6	高等学校	3 年	17	学校では教わることがないにも関わらず、社会に出て実社会で必要となってくることが多い。それらも包括的に学習をしておきたい。税金や投資、政治のことなど学ぶべきことは多いと思う。	「高知県こども計画」では、「主権者教育」や「消費者教育」「ライフデザインに関する意識啓発・情報提供」について記載し、社会に出てからのことを学ぶ機会の提供にも取り組んでまいります。こどもが興味・関心のあることに対して自発的に学ぶ姿勢は大変重要ですので、その後押しができるように努めます。 また、高知県生涯学習ポータルサイト「まなび場 S e a r c h」で生涯学習に関する情報提供を行っており、県内のありとあらゆる「学び場」や学んだことを「活かす場」の情報を発信しています。	小中学校課 高等学校課 生涯学習課 市町村振興課 県民生活課 子育て支援課
7	保護者	—	こども：1歳	0歳から2歳の乳児クラスの子供が土日遊べる施設が少ない。 室内の遊び場など有料でもいいので充実してほしい。	乳児の遊び場が十分でないというご意見について真摯に受け止めて、引き続き子育てしやすい環境づくりの取組を進めてまいります。 現在、高知県では、主に3歳未満のお子さんが遊んだり、子育て家庭同士の交流や子育て支援情報の提供・相談の場となる「地域子育て支援センター」を拠点とする取組を支援しており、令和6年度時点で25市町村1広域連合50か所で設置されています。 市町村における土日開所の取り組みへの支援や子育て世帯を支援できる環境の整備に努めてまいります。 また、子育て応援アプリ「るんだパス」や妊娠・出産・子育て応援サイト「こうちプレマnet」による子育て支援施設や子育て応援の店等のイベント情報などの情報発信の充実を図ってまいります。	子育て支援課 （母子保健・子育て支援室）

ご意見を寄せてくださった方			ご意見	県担当課からの回答	関係課
属性	学年	年齢			
8 保護者	－	こども：1歳	働きながら子育てする環境の整備などありますが、共働きで子育てはかなり大変です。1人の稼ぎで3年くらいは生活できるように支援があれば無理に保育園に預けることなく家でみることができる。育休の期間も1年は短い。民間企業では1年しかもらえない。4月入園でしか入りづらいため満1歳になる前から預けなければならない（月齢にもよる）子供がいる。叶うなら、家で満1歳まではみたいという人も多いと思う。0歳児クラスの拡充にお金を使うより、家で育てたい人に給付金をあげたらいと思う（2歳くらいまで）。欲を言えば育休の期間を民間でも2年（1年は手当あり 2年目は無給でも良いために在籍はできる）取れるのが理想。育休を2年取ってもちゃんと職場が受け入れてくれる環境も大事。その後、2人目3人目が生まれても同様に育休が取れて、周りの人も理解をしてくれる環境になるようにならないと少子化は止められないと思う。また、家で見える人が増えれば0歳児クラスの数が少なくなつて1歳児以上のクラスに配置できる先生の数も増えて双方にとって良いのではないだろうか。 子供達も早く保育園に預けられてかわいそう。 お金のためではなく親自身が働きたい場合は働けるという選択肢はあってもいいとは思いますが、生活のため、育休期間が1年しかないために預けなければいけない状況はおかしいと思う。 働きながら子育てする環境整備だけでなく働かなくても（自宅子育て）子育てできる環境整備どちらも行うべきじゃないでしょうか。	理想の出生数やこどもを産み育てやすい社会としていくために、ご家庭それぞれの子育てニーズやご希望に添えることが大切です。高知県としても、国の支援策などの取組の方向性を踏まえながら、引き続き施策の実施・検討を進めてまいります。現在、高知県では「共働き・子育て」の支援等の拡充を図っているところです。特に、男性の育児休業取得を促進していますが、育児休業の推進に当たっては、企業側の課題感や必要な支援策について把握のうえ、必要な支援策を検討していく必要があります。このため、労働環境等実態調査（令和6年度実施）における企業からの回答結果も参考にしながら、必要な支援策について検討してまいります。 さらに、こどもたちにより良い保育環境を提供するために、保育士の負担軽減は大切です。高知県としても、保育補助者や清掃などの後方支援を行う保育支援者の配置への助成や、保育所等の経営者を対象とした業務改善研修等を行っており、引き続き保育士等の業務負担の軽減に取り組んでまいります。	人権・男女共同参画課 雇用労働政策課 子育て支援課 （母子保健・子育て支援室） 幼保支援課
9 社会人（公務員）	－	32	本当に母親を応援、少子化対策を考えているなら、子育て支援をしっかりとしてほしい。産後ケア始めれば良いってもんじゃないので、現状をしっかりとみてほしい。産後うつが誰にでも起こるのに、産後ケアのチケットの回数が少なすぎる、利用できる施設が少ない（3ヶ月を過ぎると数件になり、6ヶ月を過ぎると2件しかない。しかも1件は予約はほぼ取れないので、実質1施設のみ）。本当は子供3人欲しいけど、産後しんどい1年を、ろくに助けてもらえず、自信をなくし、二人目なんて考えられなくなりました。もっと回数を増やす、対象月齢を1歳までのところを増やす、そもそも産後ケア施設も増やす、などしてほしいです。せめて親の援助が得られない人は優先してもらいたいです。せっかく保健師との面談もあるわけですし、ピックアップは簡単だと思います。	令和7年度から産後ケア事業を、子ども・子育て支援事業に位置づけて取り組みます。現在、県内すべての市町村で産後ケア事業が実施されている状況ではありますが、ニーズに対する受け皿の拡大や地域偏在を緩和できるように、引き続き取り組みを進めてまいります。	子育て支援課 （母子保健・子育て支援室）

ご意見を寄せてくださった方			ご意見	県担当課からの回答	関係課	
属性	学年	年齢				
0	保護者	—	39	2才と0才の子どもを持つ母です。私も主人も県外出身のため、祖父母も親戚なども遠方という中で、日々育児をしています。その中で、このような支援が、あれば…と思うことです。よろしくお願いします。 “産後ケア事業についての要望” 里帰り出産した場合でも、里帰り先で産後ケアを受けられるようにしてほしい。 里帰りすると、実家の援助があるため、産後ケアは、必要ないのでは？と思われるかもしれませんが、必要な場面は多々あります。例えば、退院直後の母乳のフォロー。それがあかないかで、今後の育児が大きく変わる場合があります。他にも、乳腺炎になったり、中々育児が上手く行かないなど悩みがあったりする場合など、産後ケアが必要なことも多いです。是非、里帰りした場合でも、その市町村で産後ケアが受けられるようにしてほしいです。 “産後ケアの上限回数を使い切った場合のアフターフォロー”をしてほしい。 出産と同時に赤ちゃんがNICUなどに入院し、病院で育児練習が十分でなかった場合、宿泊型の産後ケアを利用することがあるようです。その場合は、1泊のみではなく、数日間連泊した方が効果的です。(私は、4連泊しました) 例えば、高知市の場合、現在は、宿泊型・通所型・訪問型に関係なく、利用回数は、8回です。 この練習のために産後ケアを連泊して利用するとなると、半分近くチケットを使うことになります。そして、それ以降の休息や相談など、産後ケアを使う必要がある時、足らなくなり、自費になる可能性があります。そのため、病院で練習する日数が極めて少ない、まったくできなかったママには、3回程度追加のチケットを発行する、もしくは、練習で使った日数分と同じ枚数で、自己負担額2から3割で利用できるチケットを発行するなど配慮をお願いします。	産後ケア事業は、市町村が実施する事業です。里帰り出産をされる妊産婦の方への支援（産後ケア事業の償還払い等を含む）については、国からの通知に基づいて、各市町村において適切に対応されているものと認識しております。里帰り出産に関するご意見につきましては、各市町村と共有してまいります。 また、産後ケア事業は、市町村が行っている母子保健事業のひとつです。産後に、安心して子育てをしていただくためには、産後ケア事業だけで対応するものではなく、市町村におけるその他の母子保健事業や子育て施策とも連携しながら対応することが重要と考えております。支援の必要な方に支援が届くよう、市町村のこども家庭センター（旧子育て世代包括支援センター）において相談体制を推進してまいります。	子育て支援課 （母子保健・子育て支援室）
1	保護者	—	39	私も主人も県外出身のため、周りの援助などが受けにくく、子育て支援センターや産後ケアは、非常にありがたい存在です。そんな中で感じたことです。ご検討よろしくをお願いします。 “妊婦さんに有益な情報がしっかり届くようにしてほしい” ・妊婦さんに産後ケアの具体的な中身の情報や子育て支援センターで行われている妊婦向けの講座など、必要な情報が妊婦さんに届いていない。 それらを解決するために、例えば、妊婦さんを対象にした、先輩ママのガイド付きのマイクバスなどに乗って、産後ケア施設と地域子育て支援センターの見学ツアーをしたらいかがでしょうか？（もし、このようなイベントがあれば、県外出身の私としては、妊娠中絶対参加したいです）	各市町村のこども家庭センター（旧子育て世代包括支援センター）もしくは母子保健担当部署において、妊娠届出時もしくは、転入時、妊娠8か月頃の面談時には、その市町村で各時期に活用できるサービス等について、子育てガイド等に基づいて保健師等が説明を実施していると認識しておりますが、より妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援を推進してまいります。 また、情報発信サイトに關しまして、妊娠期から子育て期における様々な情報をお届けできるよう、子育て応援アプリ「おでかけるんだバス」や妊娠・出産・子育てでの応援サイト「こうちプレマnet」を開設しています。「おでかけるんだバス」では、地域子育て支援センター等で開催される講座やイベントのお知らせや、子育て応援に協賛する「こうち子育て応援の店」からのお知らせを受け取ることができます。また、こどもの急な発熱やケガに対応できる緊急連絡先の掲載や悩みを相談できる交流掲示板、助産師によるチャット相談なども運営しています。「こうちプレマnet」では、妊娠・出産・子育ての悩みを解決するヒントや子育て支援サービスのご案内、相談窓口などを掲載しています。 今後も必要な方に必要な情報が届けられるよう情報発信の充実を図ってまいります。	子育て支援課 （母子保健・子育て支援室）

ご意見を寄せてくださった方			ご意見	県担当課からの回答	関係課
属性	学年	年齢			
12 社会人(その他)	－	23	災害時避難場所までに逃げるのが精一杯。 願ひです、十市緑ヶ丘の上の団地に避難グッズを構えて置いてほしいです。 子育てしながら働きながら介護しながらのこのまま死ぬのは嫌です。結婚や恋愛は いりません。ハラスメントも耐えられます。 子育て支援はいろいろ受けたい。けれど、最終的にやっぱり生きたい。死にたくない。	「高知県こども計画」では、非常災害対策について記載しており、防災アプリや防災 キャンプ等の取組によるこども達への意識啓発から、施設整備に至るまで、命と安 全を守ってまいります。また、本県では、災害時の被害を最小化する「減災」の考え 方を基本方針とし、とりわけ人命を守るための対策を最重視しています。防災関係 機関、事業者、住民が一体となって、さまざまな対策を組み合わせた防災対策を 推進してまいります。 避難グッズにつきましては、本県では避難場所や避難所における環境整備及び 資機材整備を行う市町村に対して財政的に支援を行っています。 ご意見をいただいた内容につきましては、南国市の担当部署にお伝えいたします。	防災砂防課 港湾・海岸課 幼保支援課 学校安全対策課
13 社会人(その他)	－	27	・小、中、学校での「命のお話」講座の開催 学生の中に、子どもがどうやってできるかや、赤ちゃんの人形を抱っこする体験、「子 育ては大変だけど楽しいもの」というイメージを持ってもらえるような講座の開催をし てほしいです。若者世代は結婚はしたくても、子育て＝大変のイメージがとても強いと 思います。開業助産師など専門職の方などに来てもらえると良いです。産後ケアや 地域子育て支援センター、ファミリーサポート制度など子育てに関する市の制度など も紹介できると、子育ては1人でやるものでなくみんなで助け合いながらやることなん だという意識もつくし、それが妊婦さん、子育て世代にも優しい高知の実現、少子 化対策にもつながると思います。 ・0歳から参加できるイベントの開催例：音楽イベント、映画イベントなど子連れだ と参加しにくいイベントでも、参加しやすい雰囲気イベントが県内に増えると嬉しい です。そして、あたりまえのようにおむつ替えコーナーや授乳スペースがあるイベントが 増えて欲しいです。 ・子どもたちが発案、企画、実行できるイベントの開催。 ・子どもたちが市政県政について意見を出し合う機会の創出 高知市の事業であるこうちこどもファンドやとさつ子タウンのように、子どもたちのアイ デアや意見が反映されるイベントが開催される機会があれば、高知を子ども、若者が 元気づけて活性化していくことができると思います。子どもたちがやりたい夢には、 自然と大人たちが巻き込まれていき、地域が活性化します。 高知はこれまで、こども基本法の施行を全国に先駆けて子どもたちの意見が反映さ れる取り組みを行ってきました。 市政県政について子どもたちから意見が反映される、子どもと大人が対等な高知県 になることを願います。子どもたちのアイデアや意見を実現することが高知の子ども若 者が地元への愛着心の形成にもつながると思います	こどもの成長にあわせて命の大切さを伝えることは、大変重要です。 幼児期は、動植物や人との触れあいの中で命を大切にすることを育てる保育の営み が丁寧に行われるように支援していきます。また、「自分を、相手を、命を大切にでき る児童生徒の育成」を目指し、各学校における性に関する指導の充実に取り組ん でいます。関係機関と連携した外部講師の派遣事業等も実施しており、自他の 命・体・心を尊重して適切な意思決定や行動選択ができるようにこどもたちへの指 導を進めています。今後も引き続き指導の充実を図ってまいります。 また、妊娠・出産・子育ての応援サイト「こうちプレまnet」では妊娠・出産・子育て の悩みを解決するヒントや子育て支援サービス、相談窓口などを掲載しています。 子育て応援アプリ「おでかけるんだパス」では、悩みを相談できる掲示板等の運営の ほか、地域子育て支援センター等で開催される講座やイベントのお知らせや、子育 て応援に協賛する「こうち子育て応援の店」からのお知らせを受け取ることができま す。県内のお店や施設が子育て家族のおでかけを応援する「こうち子育て応援の 店」の取り組みにおいてもイベント等の開催時には、子育て応援の視点がさらに広 がるよう、関係部署にも周知してまいります。 こどもの行政事業への参画等に関しては、こどもに関する施策を実施する際、当事 者のこどもの意見を重視することが大切であることを関係部局に引き続き周知してま いります。なお、「高知県子ども条例」に基づく「高知県子どもの環境づくり推進委員 会」は委員15名のうち5名が高校生です。高知県のこども関連事業に関し、忌憚 のないご意見をいただいております。そうした委員の声を踏まえて県施策を充実してま いります。 こどもの意見が反映され、希望を持って暮らせる高知県となるように引き続き取り組 んでまいります。	保健体育課 幼保支援課 小中学校課 高等学校課 特別支援教育課 子育て支援課 （母子保健・子育て支援室）

ご意見を寄せてくださった方			ご意見	県担当課からの回答	関係課	
属性	学年	年齢				
4	保護者	－	33	子育て世帯に自動車の減税や購入時の給付金などどうでしょうか？ 子ども2人ならギリギリ軽自動車でも過ごせますが3人になるとそうも行きません。手当があるから産む。とはならないかもしれないがとっかかりが一つなくなるかと思ひます。家ほど大きい金額ではないですが高知は車がなければ移動ができないので買う人も増えれば経済も良くなるかと思ひます。ご検討ください。 あと、物価が高く食べ物を買うのを躊躇してしまいます。先の見通しのつかないので不安も感じるがあります。良い地方にしてください。	子育て世帯への自動車購入等に係る支援への案について、関係部署ともご意見を共有してまいります。 なお、県では現在、子育て家庭が子育てのしやすさを実感できる社会の構築に向けて、県内の事業者等が実施する子育て家庭に優しい環境整備（トイレ整備、ベビーベッドやおむつ交換台等の導入、絵本購入等）を応援しているところです。今後も県民のみなさまのお声をお聞きしながら、子育て世帯がより過ごしやすい高知県となるように取り組んでまいります。 また、物価高への対策につきまして、県民のみなさまの暮らしが守られるように、賃金アップを含めて県として国に対する要望をしっかりと行ひ、対策に取り組んでまいります。	子育て支援課 （母子保健・子育て支援室）
5	保護者	－	42	ひとり親への支援に対して、戸籍上のみひとり親世帯で、実態は実夫がいたり内縁の夫がいても支給されていることについて本当に必要か否かもっと精査されてもいいと思ひう	児童扶養手当やひとり親家庭への支援に係る給付金については、必要な書類により受給資格の確認を行っています。疑義のある場合は、事実関係の聞き取りや実態調査、現地調査等を実施し、受給資格の有無等を確認しています。 受給資格がないにも関わらず支給を受けた場合は、受給額に相当する金額の徴収を行います。 引き続き、支給要件や資格喪失要件の周知を行ひ、適正な受給の確保に取り組んでまいります。	子ども家庭課

ご意見を寄せてくださった方			ご意見	県担当課からの回答	関係課	
属性	学年	年齢				
5	保護者	－	こども：5歳	ひとり親家庭への支援	ひとり親家庭等の自立を促進するために、「収入を安定的に得ることができる仕事を確保すること」、「経済的支援や子育て支援など生活の安定を図ること」、そして、「ひとり親家庭のこどもたちが夢と希望を持って育つことができる環境を整えること」が重要です。 高知県では、ひとり親家庭への支援として、各種制度による経済的な支援や、多様な保育サービス等の充実や居場所づくりなどによる子育て面や生活面での支援、ニーズに応じた就労支援等を行っています。	子ども家庭課
7	保護者	－	こども：小学生	小さいうちからきちんとした性教育を、という観点からまずは「男の子も女の子も水着で隠れる部分（プライベートゾーン）は人に見せてはいけない」ということを幼児や小学校低学年のうちから教育現場で教えているという性教育の先進都道府県がメディアで紹介されていたのを見てから、5年以上が経ちます。 5年前、娘が小学1年生のときの1日参観日でプールの授業があり、男女一緒に教室で着替えをしていて、我が子が、隣の席に男の子がいるのに、しかもよその保護者にも見られながら、すっぽんぽんの全裸になって着替えていたのがショックでした。これでは、家でいくらプライベートゾーンの話をしていても意味が無いなと思いました。そこで、学校に対して、低学年であっても着替えは男女別々にして欲しいと訴えましたが、その後改善していただけたのかはわからないまま今に至ります。 我が子はもうすぐ小学校を卒業するので、母校で低学年がどう扱われようが我が子には関係の無いことになりますが、自分の子どもだけではなく社会全体のこととして、高知県でもより進んだ性教育が行なわれることを強く願います。 生理の話も、昭和の時代のように今もなお女子だけを集めてされているようですが、時代は令和です。将来生理についてきちんとした知識を持ちパートナーやまわりの女性に対して思いやりを持って接する男性になれるよう、男子も女子も性別に関係なく皆が一緒に居る場で生理の授業をして欲しいです。	子どもの頃からの性教育について、各学校では、学習指導要領に基づいた保健教育が行われています。高知県では「性に関する指導の手引き」を作成し、性教育の充実に向けて取組を推進しています。しかしながら、関係機関との連携や内容の充実については地域差が見られることから、各地域における性に関する課題の解決を図るために、地域の関係機関や外部講師との連携体制を構築することにより、性に関する正しい知識を身につけ、「自分を、相手を、命を大切にできるこどもの育成」を目指して取り組んでいます。	保健体育課 子育て支援課 （母子保健・子育て支援室）
8	保護者	－	こども：乳児クラス（0～2歳）	妊産婦への計10万の給付では足りない。ベビー用品(商品を選べるカタログなど)やおむつを配布してほしい。(他市町村にならって) 給付非課税世帯への給付金ばかりが間違っている。つらくても働いて税金を納めているのに、税金を納めていない者へそのお金が使われるのはおかしい。平等に給付すべき。 今のままでは高齢化が進むのみ。子育て世帯への支援を最優先すべき。無計画に子供を増やす世帯(非課税世帯に多い印象)ではなく、計画的に子育て可能な世帯が2-3人ずつ子を持って余裕を持てるようにしてほしい。 ガソリン高すぎ。増税しすぎ。政治家が搾取して無駄遣いしているだけ。根本から見直すべき。	高知県では、出産育児関連用品の購入費等に活用できる妊婦のための支援給付金の給付と、妊産婦等に寄り添い、出産・育児等の見通しを立てられるような支援や継続的な情報発信等を行う相談支援を一体的に実施しています。今後も、他自治体の取り組みも参考に、妊産婦や子育て家庭のニーズに応じた支援策の充実を図ってまいります。	子育て支援課 （母子保健・子育て支援室）